

なしのジョイントV字トレリス栽培の導入による早期成園化と省力化

いわき農林事務所農業振興普及部

果樹

新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議産地支援チーム
(いわき農林事務所農業振興普及部、いわき市、JA福島さくら、JA全農福島)

1 実証の背景・概要

(1) 背景

- 現状:管内のJAいわき梨部会では、近年生産者の高齢化により生産戸数や面積が大幅に減少している。また、多くの生産者で後継者がいないため改植が進んでおらず、園地の生産性が低下している。そのため、老木化した園地の生産性改善や栽培品種構成の見直しが大きな課題となっている。
- 改善方向:なし園の生産性改善、労働力不足解消のため、革新的技術である「なしのジョイントV字トレリス栽培」の実証ほを設置し、園地生産性の向上や作業の省力化、いわき管内における当該技術の普及を図る。また、「あきづき」、「甘太」等の優良中晩生品種を導入し、作期の分散や販売期間の延長により、なし生産者の農業所得の増加(または向上)や労働力分散を目指す。

(2) 実証の概要

○導入機材及び面積

ジョイントV字トレリス用梨棚(5a)、ロング苗木、優良中晩生品種(豊水、あきづき、甘太)

○技術の概要

慣行ジョイント栽培より主枝位置を下げ、栽培管理の省力化や生産性向上を実現するジョイントV字トレリス樹形を導入し、いわき管内における地域適応性や生産性、省力性を確認する。

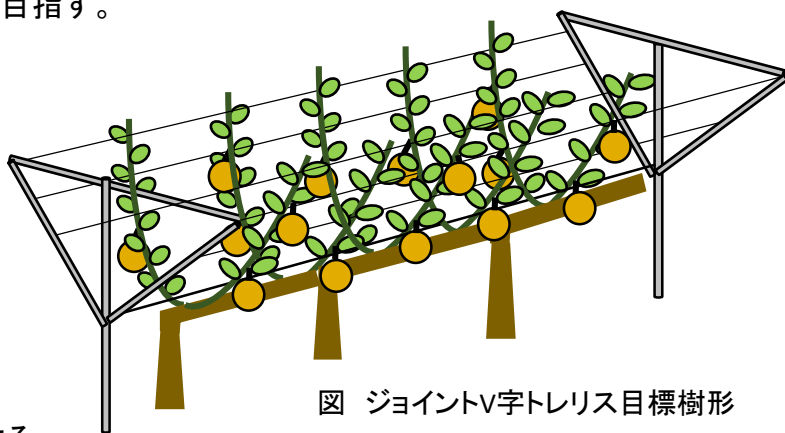


図 ジョイントV字トレリス目標樹形

2 実証の成果

(1) 成果

- 令和2年3月に実証ほを設置(図1)。
- ジョイント研修会を開催(図2)してV字ジョイントの推進を図り、1名が導入した。
- 苗木の管理指導を行い、苗木の枯死や病害虫の被害を最小限に抑えられた。



図1 設置直後の様子

(2) 導入による産地への効果

- 部会内の若手生産者を中心にジョイント栽培に興味を示しており、次年度1名導入予定。
- 早期成園化、早期多収が可能であるため、所得の向上が見込まれる。
- 作業動線が一直線となり省力化が図られるため、生産者の作業負担を減らすことが可能となる。



図2 ジョイント研修会

3 実証担当農家・産地より

- 慣行栽培より早期多収や省力化が可能のため、優良中晩生品種と併せて改植を行い、園地の生産性を向上させていきたい(実証担当農家)。
- 省力化を目的にジョイント栽培を導入し、産地維持のためサポートしていきたい(産地)。

経営モデル

日本なし10aを慣行方式で生産している畑をジョイントV字トレリス方式で改植した場合を想定した経営モデル。

前提条件

項目	内容
想定モデル規模	労働力 2名
	栽培面積 日本なし10a
	導入品種 豊水
栽培方法	作型 JV字トレリス栽培
	栽植様式 植栽本数174本/10a
	植栽距離 3m×1.5m

導入コスト

資材名	数量	耐用年数	金額(円)
果樹ジョイントV字棚 (10a)	1	14	1,267,200
ジョイント用ロング苗 (本)	174	26	336,160
堆肥 (t)	2	-	5,000
合計			1,608,360

項目	技術導入前又は慣行 (面積：10a)	技術導入後 (面積：10a)
生産量 t	3	5
(生産量 (t) /10a)	3	5
販売額 (千円)	900	1,500
(単価円/kg)	300	300
経営費 (千円)	496	682
うち 種苗費	0	0
肥料費	34	34
農薬費	46	44
小農具費	14	14
諸材料費	4	46
光熱動力費	9	7
流通経費	204	347
減価償却費	185	190
雇用労働費	0	0
その他※	0	0
農業所得 (千円)	404	818

補足説明
(注意事項等)

○JVトレリス栽培方式を導入した場合、6年目で約3倍の収量が得られ、早期成園化が可能となる(慣行1.8t)。○品種によって単価が変わる。

※その他：賃借料、共済掛金など